虚弱

三島霜川

青空文庫

友と二人でブラリと家を出た。固より何處へ行かうといふ、的もないのだが、話にも厭きが來たので、所在なさに散歩と出掛けたのであツた。

入梅になツてからは毎日の雨降、其が辛と昨日霽ツて、庭柘榴の花に今朝は珍らしく旭が紅々と映したと思ツたも束の間、午後になると、また灰色の雲が空一面に擴がり、空氣は妙に濕氣を含んで來た。而て頭が重い。

「厭な天氣だね。」

「こんな日は何うも氣が沈んで可けないものだ。」

味も素氣もないことを云ツて、二人は又黙ツて歩を續ける。

道路の左側に工場が立ツてゐる處に來た。二十間にも餘る巨大な建物は、見るから毒々〳〵しい栗色のペンキで塗られ、窓は岩疊な鐵格子、其でも尚だ氣が濟まぬと見えて、其の内側には細い、此も鐵製の網が張詰めてある。何を製造するのか、間斷なし軋むでゐる車輪の響は、戸外に立つ人の耳を聾せんばかりだ。工場の天井を八重に渡した調革は、網の目を透してのた打つ大蛇の腹のやうに見えた。

「恨ましやすんな、諦めなされ、
日の眼拝まぬ牢屋の中で、
手錠、足械悲しいけれど、
長い命ぢやもうあるまいに
何うせ自暴だよ……」

皺嗄れた殆ど聴取れない程の聲で、恁う唄ふのが何處ともなく聽えた。私は思はず少し歩を緩くして耳を傾けた。

機械の轟、勞働者の鼻唄、工場の前を通行する度に、何時も耳にする響と聲だ。決して驚くこともなければ、不思議とするにも足らぬ。併し何ういふものか此時ばかり、私の心は妙に其方に引付けられた。資本主と機械と勞働とに壓迫されながらも、社會の泥土と暗黒との底の底に、僅に其の儚い生存を保ツてゐるといふ表象でゞもあるやうな此の唄には、何んだか深遠な人生の意味が含まれてゐるやうな氣がしてならなかツた。

けれども勞働者の唄は再び聽えなかツた。只軋く車輪と鐵槌の響とがごツちやになツて聞えるばかりだ。若しや哀れな勞働者は其の唄の終らぬ中、惡魔のやうな機械の運轉の渦中に身躰を巻込まれて、唄の文句の其の通り、長くもない生涯の終を告げたのではあるまいか。と、私はこんな馬鹿氣たことまで空想して見た。

「何んだか悲しい唄ぢやないか。」といふと、

「然うだね。僕は何んだか胸苦しくなツて來たよ。」と儚ないやうな顔をしていふ。

「何うして急に舍して了ツたのだらう。」

「然うさね。」

其は永遠に解けない宇宙の謎でもあるかのやう。友と私とは首を垂れて工場の前を通過ぎた。

「君、此の頃躰は何うかね。」と暫くして私はまた友に訊ねた。私達は會ふと必ず孰ちか先に此の事を訊く。一つは二人共躰に惡い病を有ツてゐるからでもあらうが、一つはまた面白くない家内の事情が益々其の念を助長せしむるやうになツてゐるので、自然陰鬱な、晴〳〵しない、稍もすれば病的なことのみを考へたり言ツたりするのであらう。

「躰？」と友は些ツと私の方を見て、「躰は無論惡いさ。加此此の

天氣ぢやね。」

「矢張悪いのか。そりや可かんね。何ういふ風に？……矢張何時ものやうに。」

「然う。まア、然うなんだらう、頭が變にフラ〳〵するし、其に胸が何うも。」

「痛むのか。」

「あゝ。」

「そりや困るな。」

頭の所爲か天氣の加減か、何時もは随分よく語る二人も、今日は些ツとも話が跳まぬ。

「躰も無論悪いが」と暫らくして友は思出したやうに、「それよりか、精神上の打撃はもツと〳〵胸に徹へるね。」

「……」

「あゝ、僕あもう絶望だよ！」投出すやうな調子で友は云ツた。私の胸は鉛のやうに重くなツた。

「曩の勞働者の唄ね、君は何う思ふか知らないけれど、あれを聽いてゐて、僕は身につまされて何んだか泣きたくなるやうな氣がしたよ。」

「然うかい、君も然うなのかい、」と私は引取ツて、「工場の前も幾度通ツたか知れないが、今日程悲しいと感じたことは是まで一度もなかツた。其にしても君、僕等の一生も好く考へて見れば、あの勞働者なんかと餘り違やしないな。」

「然うさ、五十歩百歩さ」と、友は感慨に耐へないといふ風で、

「少許字が讀めて、少許知識が多いといふばかり、大躰に於て餘り大した變りはありやしない。口では意志の自由だとか、個人の權威だとか立派なことは云ツてゐるものゝ、生活の爲めには心にもない業務を取ツたり、下げなくても可い頭も下げなければならない。勞働者勞働者と一口に賤んだツて、我々も其の勞働者と些ツとも違やしないぢやないか。下らぬ理屈を並べるだけ却ツて悪いかも知れない。」

藝術の價値だの、理想の永遠だのといふことを、毎も口癖のやうにしてゐる友としては、今日の云ふことは何だか少し可笑しい……と私は思ツた。

「けれども……、」と友は少し考へて、「僕等は迚も勞働者を以て滿足することは出來ない。よし僕等の生涯は、勞働者と比較して何等の相違がないとしても、僕等は常に勞働者的生涯から脱して、もう少し意味ある、もう少し價値あるライフに入りたいと希望してゐる。生れて人間の價値をも知らず、宇宙の意味をも考へないで、一生を衣食の爲に營々として浪費して了ツたら、其は随分辛いだらうが、高が些々たる肉躰上の苦痛のみなのだから、其の人に取ツては或意味に於て寧ろ幸福であるかも知れない。讀書は徒らに人の憂患を増すのみの歎は、一世の碩學にさへあることだから、單に安樂といふ意味から云ツたら其も可からうけれど、僕等は迚も其ぢや滿足出來ないぢやないか。そんな無意義な生涯なら動物でも送ツてゐる。如何に何んでも、僕は動物となツてまでも安さを貪らうとは思はないからな！」

沈痛な調子で慨う云ツて、友は其の幅のある肩を聳やかした。

「あゝ僕等は何うして慨う不幸なんだらう。精神上にも肉躰上にも、毎も激しい苦痛ばかりを感じて、少しだツて安らかな時はありやしない。慨うして淋しい一生を送ツて行かなきやならないかと

思ふと、僕は自分の將來といふものが恐ろしいやうな氣がしてならない。」

「眞ンとに」と、友は痛く感じたやうな語調で、「僕等の將來は暗黒だ。けれども其の埒外に逸することの出來ないのが運命なのだから爲方がない、性格悲劇といふ戯曲の一種があるが、僕等が丁度其だ。僕等の此の性格が亡ぼされない以上、僕等は到底幸福な人となることは出來ない。」

「けれども、」と私は口を挿んで、「けれども其の一種の性格が僕等の特長なんぢやないか。此の性格が失われた時は、即ち僕は亡びたのだ。然うしたら社會の人として、或は安楽な生活を爲し得るかも知れない。併し精神的には、全く死んで了ツたのも同じことなんだ！」

「然うだ、其だから僕等の生涯は永久に暗黒だと云ふのだ！家庭は人生の活動の源である、と、人に依ツてはこんなことを云ふ者もある。成程、一日の苦闘に疲れて家に歸ツて來る、其處には笑顔で迎へる妻子がある、終日の辛勞は一杯の酒の爲に、陶然として酔ツて、全て人生の痛苦を忘れて了ふ。恁ういふことが出來たら、其は嘸樂しいことだらう。併しこんなことが果して僕等に出來るだらうか、少くとも僕等はそんなことを爲し得る素質を有してゐるだらうか。何うして思ひもよらぬことだ。」と少し苛々したやうな調子で、

「あゝ孤獨と落魄！之が僕の運命だ。僕見たいな者が家庭を組織したら何うだらう。妻には嘆きを懸け子には悲しみを與へるばかりだ。僕は、病床を侍して看護して呉れる、優しい女性の手も知らないで淋しい臨終を遂げるんだ！」

私は默して只歩を運んだ。實際何と云ツて可いやら、些と返答に苦しんだからである。友の思想と自分の思想とは常に殆ど同じで、其の一方の感ずることは軈て又他方の等しく感ずる處であるが、今の場合のみは、私は直に贊同の意を表することが出來なかツた。其の生涯の孤獨といふ考には心から同情しながらも、猶他に良策があるやうに思はれてならなかツた。少くとも自分だけは、もう些ツと温な、生涯を送りたいやうな氣がしてならなかツた。

ふと眼を我歩み行く街路の前方に向けた。五六間先から年頃の娘が歩いて來る。曇日なので蝙蝠は窄めたまゝ手にしてゐる故か、稍小さい色白の顔は、ドンヨリした日光の下に、まるで浮出したやうに際立ってハツキリしてゐる。頭はアツサリした束髪に白いリボンの淡白な好。娘は歩みながら私の顔を凝と見入ツた。あゝ其の意味深い眼色！私は何んと云ツて其を形容することが出來やう。媚るやうな、嬲るやうな、そして何かに憧れてゐるやうな其の眼……私は少女の其の眼容に壓付けられて、我にもなく下を向いて了つた。其の間に娘は艶かしい衣の香を立てながら、靜に私の側を通ツて行ツた。

「フアゾムレス　アイズ！」

私は幾度となく此の言葉を心の中で繰返して見た。

少女の眼は滅入り込んだ私の胸を輕くさせた。今までの悲哀や苦痛は固より其によツて少しも減ぜられたといふ譯ではないが、蔽重なツた雲の間から突然日の光が映したやうに、前途に一抹の光明が認められたやうに感じて、是からの自分の生活というものが、何だか生効のあるやうに思はれた。若き血潮の漲ぎりに、私は微醺でも帶びた時のやうにノンビリした心地になツた。友はそんなことは

氣が付かぬといふ風。丁度墓門にでも急ぐ人のやうな足取で、トボ〳〵と其の淋しい歩を續けて行ツた。

青空文庫情報

底本：「三島霜川選集（中巻）」三島霜川選集刊行会
1979（昭和54）年11月20日発行
初出：「新声」
1908（明治41）年2月1日号
※新字と旧字の混在は、底本通りとしてました。
入力：小林　徹
校正：松永正敏
2003年12月6日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

虚弱

三島霜川

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/